

若年者の性行動 ―― その現状と問題点

赤枝六本木診療所 赤枝 恒雄

(現状)

若年者の性行動が低年齢化し、活発化してきたことは、妊娠数や性感染症の報告から明らかである。

現代の子供たちはアダルトビデオを中心とした間違った性知識を教科書として我々大人が思いもつかない危険な性交を繰り返している。その結果、望まない妊娠や性感染症、女性蔑視、レイプ等が引き起こされている。

エイズ感染者も増加しているが、平均的なレベルの高校生、男子 6.7% 女子 13.1%がクラミジアに感染している現実（平成 16 年厚生労働省）を見逃してはならない。クラミジアはエイズ罹患率の上昇、赤ちゃんの失明、そして不妊の原因となる重要な疾患である。

近い将来、出産をひかえ我々の未来を託す大切な子供を産み、育ててもらうことに大きな危険信号がでているのである。

私の調査報告は東京の現状であるが、これは全国的にみて良好な状態にあり、地方の方がもっと深刻であることを認識して頂きたい。

(問題点)

金が全ての尺度となった大人社会

母子手帳により初回産科検診で HIV 検査が義務化されていない

小学生までの幼児や大人には数々の保健医療サービスは行われているが、思春期の子供にはない

アダルトビデオはじめ、性産業は野放し状態

街角のトイレ、電話ボックスのビラの氾濫

性の自己決定権が刑法で 13 歳

子宮頸癌の原因ウイルス・パピローマウイルスの検査が健康保険の適用になっていない

酒、タバコの規制が甘い

インターネット教育による正しい活用法が徹底していない

小学生でも有害サイトにつながる携帯の機能

(対策)

少人数制の性教育を徹底する、性交教育も導入する

道徳教育の復活

小、中学校での携帯電話禁止、帰宅したら親にあずける

コンドーム教育の推進

パピローマウイルスの健康保険の適用

夜間、盛り場で補導した子供の親を養育義務違反で処分する

性の自己決定権を諸外国に倣い 16 歳にする。自己抑制の指導

中、高校生の性感染症無料検診システムを作る

成人用携帯と未成年用の携帯を作る